にっぽんご（2）

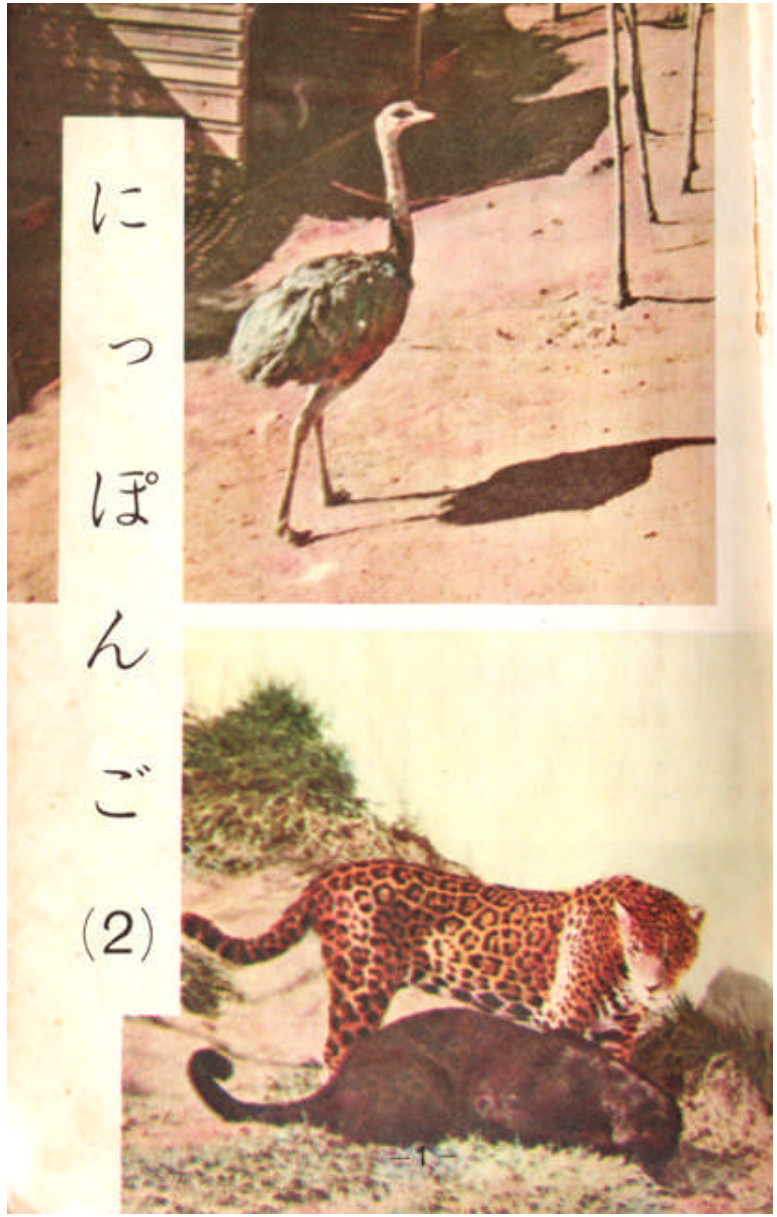
日伯文化普及会

日本語教科書刊行委員会

(003.jpg)

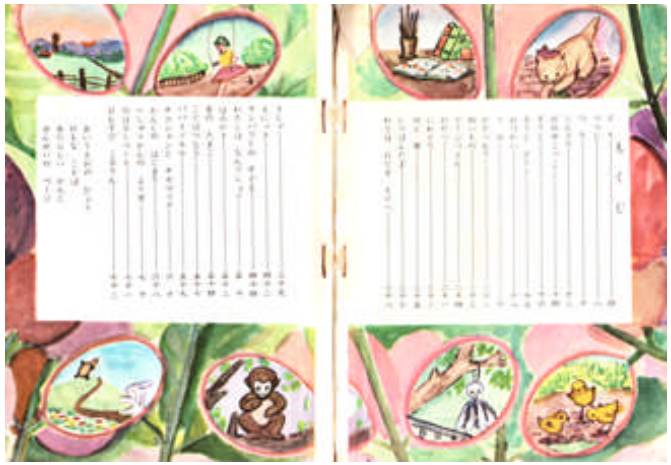
もくじ

とり
つつじ
つり
じんとり
おみせごっこ
そうじ
そうじどうぐ
おつかい
うみ
かたつむり
ぬいもの



どうぶつえん
おやつ
にわとり
口と　耳
しゃぼんだま
わとは　おとを　えとへ
きしゃ
えにっき
ランバリーの　子ども
わたしは　なんでしょう
はみがき
金の　たまご
ことばつなぎ
パパイノエル
チコジョンと　チカマリア
かんじの　はじまり
一しゅうかんの　よう日
おはなしつくり
おむすび　ころりん

あいうえおの　ひょう
おもな　ことば
あたらしい　かんいし
せんせいの　ページ



(004.jpg)

し
ろ

しろい
とり

(新文字 ろ しいとり)

(005.jpg)

ち
ちちち

とりの こえ

ことり
ことり
おりて こい

(新文字 ち のこえおて)

(006.jpg)

にわの
つつじ
わたしの
つつじ

あかと
しろ

きれいに
さいた

(新文字にわつじたあかきれさ)

(007.jpg)

うらの
かわに
にいさんと
つりに
いく

ペリーも
あとから
かけて
くる

（新文字　うらんくぺもける）

（008.jpg）

じんとり
する　もの
よって　おいで
おったり
にげたり
たすけたり

（新文字　すっでげ）

(009.jpg)

マモンと
バナナ
みかんに
すいか
りんごも
あります

きれいな
みせです

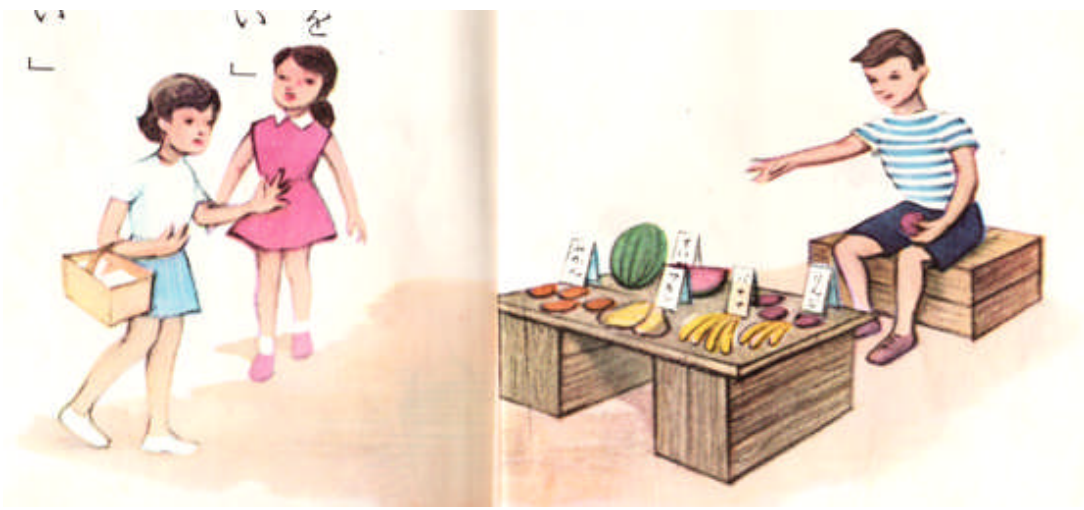
「りんごを
くださいい」

「はい」

「ふたつ
くださいい」

「はい
ありがとう」

(新文字 みごまなせをだはふが)



(010.jpg)

そうじ

わたしは
おかあさんと
へやの
そうじを
しました

そうじ　どうぐ

はたき
ほうき
ちりとり
ぞうきん
ばけつ

(新文字はへやそどぐほぞば)

(013. jpg)

おつかい

はたけに　おべんとうを　もって
いきました。
おとうさんが、
ぼくの　ほうを
むいて、
「やあ、
ありがとう。」
といいました。
木の　下で
おべんどうを
たべました。
にいさんが
ぱく　ぱく
よろこんで
たべました。
すずしい　かぜが

ふいて　きました。

（新文字　べ　ぼ　む　ぜ）

（012.jpg）

う　み

きのう
はじめて
うみを　みた。

ひろいのに
びっくりした。

いろいろな　ふねが
うかんで　いた。

そして
ゆうべ、
ふねに
のって　いる
ゆめを　みた。

（新文字　ひ　び　ね　ゆ　め）

(013.jpg)

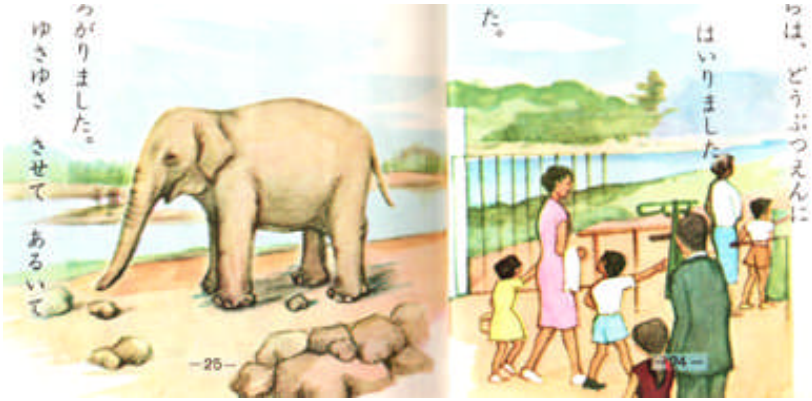
バナナの　は　に
かたつむりが　いました。
とって　きて　いもうとに
みせて　やりました。
いもうとは
「でんでんむし、
でんでんむし。」
と　いって
よろこびました。

ねえさんが　わたしの
ブルーザを　ぬって　います。
わたしは
そばで　みて　いました。
ねえさんが
「もう　すぐ　できます。」
と　いいました。

(新文字　ぬ)

どうぶつえん

きのう　わたしたちは、どうぶつえんに
いきました。
きっぷを　かって　はいりました。
むこうに
ぞうが
みえました。
わたしたちは、
はしって　いきました。
ぞうは　はなで
小さい　石を
ひろいました。
はなを　くるっと
まわして
なげました。
石は、となりの
らくだの　方に　ころがりました。
らくだは、こぶを　ゆさゆさ　させて　あるいて



（新文字・新漢字　ぶ　ぷ　石　方）

（015．ｊｐｇ）

きました。

いけの　中に、さるの

いえが　ありました。

さるは、いえから

出たり　はいったり

して　いました。

おもしろそうに

あそんで　いました。

つなに　しっぽを　まきつけて、

ぶらさがって

いるのも　いました。

「やあ、おさるの

つなわたり」

と、マリオさんが

いいました。

こんどは、ことりの

いえに　はいりました。
いろいろの　とりが　いました。
（新文字・新漢字　出　ぽ）

（016．ｊｐｇ）

水を　あびたり、えだから　えだに　とびうつったり　して　いました。
つぎに　マンドリルと　いう　さるを　みました。
大きな　さるでした。
赤や青の　えのぐを　ぬったようでした。
さるは　きちんと　すわって　いました。りょう手で　バナナを　もって　たべて　いました。
「こっちを　むいて。」
と　はるえさんが　いいました。
さるは、おこったような　かおを　して　こちらを　みました。
くまや　おおかみを　みてから　オンサや　ライオ

ンも　みました。

マリオさんが、

「ここには　なにも　いないや。」

と　いいました。

（新文字・新漢字　水　赤　青　りょ）

（017.ｊｐｇ）

「あ、　わに　わに。」

はるえさんが　ゆびを　さしました。

よく　みると　土の　上に　わにが　いました。

一ぴきの　わにが、大きな　口を

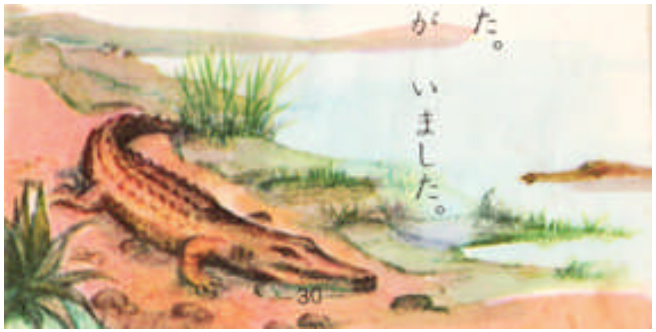
あけて、およいで　きました。

マリオさんは、

「こわい　こわい。」

と　いいました。

それから　アンタを　みました。



「ボン　ボン　ボン。」

「あ、三つ　なった。おかあさん　三じよ。

おちゃの　じかんね。きようは　おいしい

おかしが　ありますよ。」

「わあ、うれしい。」

「にいさんにも、とって

おいて　あげましょうね。」

「にいさんは、なんじに　かえるの。」

「そうね、六じには　かえって　きますよ。」

（新文字・新漢字　土　口　ぴ　ちゃ　きょ　しょ）

にわとり

わたしの　うちに　にわとりが
十七わ　います。
夕がた　わたしが　ミーリヨを
やります。
わたしは、ラッタを　もって
うらにわに　出ます。
にわとりたちは、よろこんで
あつまって　きます。
とおくに　いるのは、はねを
ひろげて　走って　きます。
「おまちどおさま　なかよくね。」
と　いって　まいて　やります。
とりあいっこで
大さわぎを　します。
「もっと　くれ、もっと　くれ。」
と　わたしに　とびつきます。
わたしの足を　つつくのも　います。
（新文字・新漢字　タ　リヨ　走）

(019.jpg【】特殊文字)

「きょうは　おしまい
　また　あした。」
と　いって、わたしは　ラッタを
さかさまに　して　みせます。
　それでも、
にわとりたちは、
まるい　目を　して
わたしを
みて　います。

【口】

ロで　ごはんを　たべる。
ロで　ことばを　はなす。
ロの　中。ロの　まわり。
ロを　あける。　ロを　とじる。
大きい　ロ。小さい　ロ。

【耳】

耳で　おとを　きく。

うさぎの　ながい　耳。

ぞうの　大きい　耳。

右の　耳。左の　耳。

(新漢字　目　耳　右　左)

(020.ｊｐｇ　横書き　左ｐｇから)

しゃぼんだま

1.　しゃぼんだま　とんだ、

やねまで　とんだ。

やねまで　とんで、

こわれて　きえた。

かぜ　かぜ　　ふくな、

しゃぼんだま　とばそう。

2.　しゃぼんだま　　きえた、

とばずに　きえた。

うまれて　すぐに、

こわれて　きえた。
かぜ　かぜ　ふくな、
しゃばんだま　とばそう。

（新文字　しゃ）

（021.ｊｐｇ【】特殊文字）

【わ】と【は】　【わ】たの　はな【は】　きれいです。
【お】と【を】　【お】どり【を】　みました。
【え】と【へ】　【え】んそくで　うみ【へ】　いきます。

【わ】たし【は】　【お】とうさん【を】
むか【え】に、　はたけ【へ】　いきました。

き　し　ゃ

この　まえの　日よう日に、ぼく
は　おかあさんと　いっしょに
おばさんの　ところへ　いきました。
きしゃに　のって　いきました。
えきに　いくと、きっぷうりばには　もう　おとこ

の　人や　女の　人が　ならんで　いました。
おかあさんは、れつの　一ばん　あとに　つきました。　かいさつ口を　とおる　とき
(新漢字　女)

(022.ｊｐｇ)
おかあさんが
「じゅんじゅんですよ、おさないで。」
と　いいました。
きしゃが　つきました。
ぼくらは、みんなが　おりてから　のりました。
きしゃは　どんどん　走りだしました。
きしゃは　てっきょうを　わたりました。大きな
おとを　たてました。
川の水は、きらきら　光って　いました。

おかあさんが
「かわを　ちらしては
いけませんよ。」
と　いって、みかんを
出して　くれました。
ぼくは　みかんを
たべながら、外を　見て　いました。
いえや　はたけが、あとへ　あとへ
とんで　いきました。
(新漢字　じゅ　光　出　外　見)

(023.ｊｐｇ　絵日記手書き)

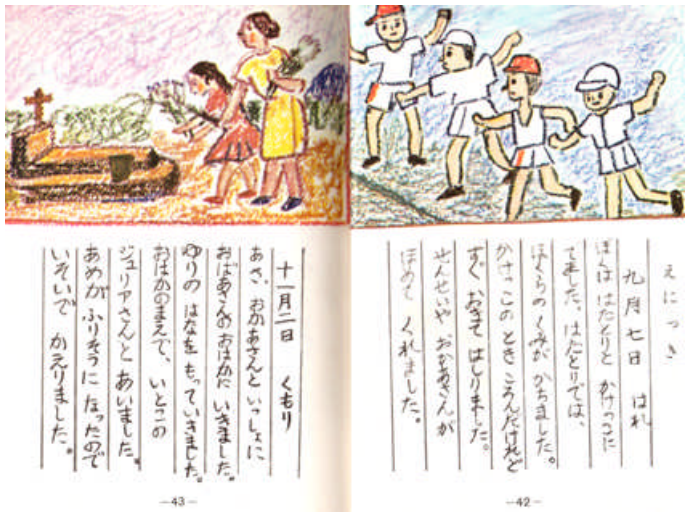
絵日記

九月七日　はれ

ぼくは　はたとりと　かけっこに
でました。はたとりでは、
ぼくらの　くみが　かちました。
かけっこの　とき　ころんだけれど
すぐ　おきて　はしりました。
せんせいや　おかあさんが
ほめてくれました。

十一月二日　くもり

あさ、おかあさんといっしょに
おばあさんのおはかに　いきました。
ゆりの　はなを　もっていきました。
おはかのまえで、いとこの
ジュリアさんと　あいました。
あめが　ふりそうに　なったので
いそいで　かえりました。



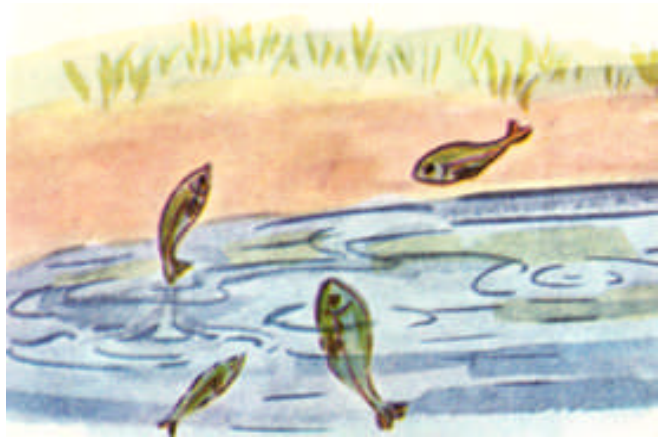
(024. jpg)

ランバリーの　子ども

「とびあがって　ごらん。
もっと　とびあがって　ごらん。」
ランバリーのおかあさんが　子ども

たちに　おしえて　いました。
ランバリーの　子どもたちは、
ピチッ　ピチッ
と　水の　上に　はねあがりました。
一ぴきの　ランバリーの　子どもは、
どうしても　とびあがる　ことが　できません。
「ぼく　こわいんだもの。」
「まあ、そんな　よわむしでは　だめ。
ほら、こう　やって　どぶのよ。」
ランバリーの　おかあさんは、いきおいよく　とび
あがって　みせました。
うおを　とりに　きて　いた　おとこの　子が
「あっ。あそこに　ランバリーが　たくさん　いる。」
と　大きな　声で　いいました。
（新漢字　声）
（025．ｊｐｇ）
「あぶない、みんな　おにげなさい。」
ランバリーの　おかあさんが　いうと、

ランバリーの　子どもたちは、
どんどん　にげました。
　けれども、よわむしの
ランバリーの　子どもは、
にげおくれました。
　そして、おとこの　子に
つかまって　しまいました。
　小さい　かんの　中に
いれられました。
「やっと　一ぴき　とれた。」
おとこの　子が　いいました。
「もう　だめだ。」
と　ランバリーの　子どもは
おもいました。
　その　とき、おかあさんの
声が　きこえて　きました。
(026.jpg)
「とびあがって　ごらん。



もっと　とびあがって　ごらん。」

ランバリーの　子どもは、
おかあさんが　よんで　いる
ように　おもいました。

ランバリーの　子どもは、
きゅうに　ゆうきが　でました。
「おかあさん。」
と　むちゅうで　さけびました。

そして、力いっぱい
とびあがりました。

ランバリーの　子どもは、
かんから　とびだしました。

そして、もとの　川へ
かえる　ことが　できました。

（新文字・新漢字　きゅ　ちゅ　力）

(027.jpg)

わたしは　なんでしょう

わたしには、手が　二本　あります。
ながい　手と、みじかい　手です。　ひるも
よるも　ねないで　かおを　なでて　います。
わたしは、きれいな　きものを　きて　います。
くちばしは、まがって　います。
じょうずに　しゃべります。

あたまに　火がついて　いて、白い　からだです。
だんだん　せいが　ひくく　なります。
からだに　ある　二つの　まどです。
だれも　さわらないのに、あいたり　しまったり
します。

ぼくの　足は　1本です。　立って　よく
まわります。こどもど　なかよしです。

(新文字・新漢字　本　じょ　火　白　立)

(028.ｊｐｇ)

はみがき

わたしの　はブラシ
かわいいな。
お口で　なってる
シュ　シュ　シュ。

あっちへ　こっちへ
うえしたに。
うごかす　はブラシ
シュ　シュ　シュ。

たべたら　みがこう
わすれずに。
むしばは　いやだよ
シュ　シュ　シュ。

つよい　は　白い　は
うれしいな。
たのしい　はみがき
シュ　シュ　シュ。

(029.ｊｐｇ)

金のたまご

ある　おじいさんが、一わの　がちょうを　かって
いました。
その　がちょうは　ふしぎな　がちょうで、まい日
一つずつ　金の　たまごを　うみました。
ピカピカ　光る　金の　たまごです。
まいあさ、　とりごやに　いくのが　うれしくて
たまりませんでした。
おじいさんは、
「まい日、一つずつでは
つまらない。三つぐらい
うんで　くれないかな。」
と　おもいました。
がちょうの　おなかを
なでたり、おいしい　えさを
やったりしました。　でも、
一つしか　うみません。

「あの　がちょうの　おなかには、きっと、大きな
（新漢字　金）

（030．ｊｐｇ）
金の　かたまりが　あるに　ちがいない。
それが　あれば、わたしは　大金もらに　なれる。
と　かんがえました。
おじいさんは、おもいきって
がちょうを　ころして、
おなかを　あけて　みました。
おなかの　中には、
金の　たまごも、金の　かたまりも、
ありませんでした。

ことば　つなぎを　しましょう

上のことばに、中と　下の　ことばを
つなぎましょう。

おかあさんが、　ザアサア　はしって　います。
あめが、　うみの上を　して　います。
ふねが、　せんたくを　ふって　います。
はなが、　タマンコを　さいた。
犬が、　まっかに　くわえた。

ほかにも、みんなで　つくって　みましょう。

（新漢字　金　犬）

（031．ｊｐｇ　横書き。左ｐｇから）

パパイノエル

パパイノエルの
おじいさん　きらいよ。
わたしの　くつしたに
なにも　入れて　いって
くれないもの。

ことしは　ちっとも
べんきょう
しなかったからよ。
いけない　子ね
わたし。

だけど　これからは、
べんきょうします。
パパイノエル
きっとよ　きっと。

こんどは
おもちゃを
くつしたいっぱい
ちょうだいな。

（新文字・新漢字　入　きょ）

(032. jpg)

チコジョンと　チカマリア

ひろい　カフェザールの　中に、二わの　すずめが、すんで　いました。

チコジョンと　チカマリアと　いう　なまえです。

二わの　すずめは、たいへん　よくにて　いますが、チコジョンは、いつも　大きい　ぼうし、チカマリアは、小さい　ぼうしを　かぶって いました。

まい日、山や　はたけを　とびまわって、たのしくくらして　いました。

木の　め　が　ふくらみ、カフェーの　はなも　さきだしました。

「もう　はるだよ。ぼくら　も　あたらしい　す　を　つくろうよ。」

と　チコジョンが　いいました。

（新漢字　山）

（033．ｊｐｇ）

「こんどは、まえより　もっと　いい　ところに、
　つくりましょうね。」
と　チカマリアが　いいました。
　二わの　すずめは、ほうぼうを　とびまわって、
す　を　つくる　ばしょを　さがしました。
　よしえちゃんの　うちの　にわで、チコジョンが
赤い　はなの　さいて　いる、バラの　木を　見つけ
ました。バラの　木は、えだが　たくさん　あって、
よかったけれども、とげが　いっぱい　ありました。
　チカマリアは、こでまりの
木を　見つけました。
　白い　つぼみを　ぎっしり
つけて　いました。
「まあ　きれい。この　木に
す　を　つくりましょう。」
と　いいました。

「いい　ところだ。この　はな
が　みんな　さいたら、はな
(新文字　ぎ)

(034. ｊｐｇ)
の　ごてんだよ。」
と　チコジョンが　いいました。
二わの　すずめは、す　を
つくりはじめました。
まい日、あさから　ばんまで
いっしょうけんめい、はたらき
ました。
はじめに、小えだを　もって
きて　ならべました。
とおくから、なんべんも
くさを　はこんで　きました。
やわらかい　とりの　はねも、
ひろって　きて　しきました。
す　の　そとがわは、木の　は

で　つくりました。
チカマリアが、赤い　けいと
を　もって　きて、　かざり
ました。
（新文字。新漢字　小　ざ）

（035．ｊｐｇ）
「きれいだね。どこに
あったの。」
チコジョンが　ききました。
「まどの　下に　　おちて
いたのよ。　よしえちゃんが
すてたのでしょう。」
と　チカマリアが　いいまし
た。
す　は、すっかり　できあ
がりました。
手のひらくらいの　大きさ
でした。　こでまりの　はなに

かこまれて　いる、すばらし
い　うちです。
「できた。できた。」
チコジョンと　チカマリア
は、す　の　まわりを　とびま
わって　よろこびました。

かんじは　こうして　できました。

ほかの　じ　も　がんがえて　みましょう。

（上段）
一しゅうかんは　七日

日ようび
月ようび
火ようび
水ようび
木ようび
金ようび
土ようび

（下段）
はんたいの　ことばを
かんがえましょう。

あつい。
かるい。
ながい。
とおい。
ひがし。
右
上
まえ

おはなしつくり

【水】と　いう　ことばを　つかって、
おはなしつくりを　しましょう。
マリオ「水が、ながれます。」
はるえ「花に、水を　やりました。」
よしお「つめたい　水を　のみたい。」

こんどは【つくえ】【本】の　二つの　ことばを
つかって　つくりましょう。
のぼる「つくえの　上に、本が　あります。」
（新文字・新漢字　日　しゅ　月　火　水　木　土　花）

（038．ｊｐｇ）

おむすび　ころりん

ある日、おじいさんが　山で　木を　きって　いました。　おひるに　なりました。　おじいさんは、おむすびを　たべはじめました。　うっかりして、おむすびを　一つ　おとしました。

おむすびは、ころころ　ころがって　いきました。
むこうの　木の　ねもとに、大きな　あなが　ありました。おむすびは、その　あなの　中に　ころがりこみました。
すると、あなの　中から
「おむすび　ころりん
すっとん　とん。」
と　うたう　声が　きこえてきました。
おじいさんは、ふしぎにおもいました。あなの　中をのぞいて　みました。
中は、まっくらで、なにも

(039. jpg)
見えませんでした。
おじいさんは、
「へんだなあ。」
と　ひとりごとを　いいました。そして、おむすびを

一つ　おとして　みました。
「おむすび　ころりん　すっとん　とん。」
　また、うたが　きこえて　きました。
　おじいさんは、
「これは　おもしろい。」
と　いって、もう一ど、おむすびを　おとしました。
「おむすび　ころりん　すっとん　とん。」
「おもしろい　おもしろい。」
　おじいさんは、おもしろくて
たまりません。
　おじいさんは、
「もし、わたしが　おちたら、
　どんな　うたが　きこえる
　だろう。」

(040．ｊｐｇ)
と　おもいました。
　おじいさんは、あなの　中に　とびこみました。
「おじいさん　ころりん　すっとん　とん。」

あなの　中は、きれいな　ごてんでした。てんじょうも、はしらも、ぴかぴか　光って　いました。

おじいさんは、びっくりしました。目を　まるくして　あたりを　見まわして　いました。

そこへ、うさぎが　たくさん　出て　きました。

「おじいさん、よく、いらっしゃいました。」

うさぎたちは、みんなで　おじぎを　しました。

うさぎたちの　いちばん　まえに　大きな　うさぎが　いました。

その　うさぎが、

「ここは　うさぎの　くにです。ゆっくり　あそんでいって　ください。」

と　いいました。

そして、ごちそうを　だし

(041.jpg)

て　すすめました。

うさぎたちは、うたを　うたったり、　おどりを

おどったりしてみせました。

おじいさんも、うさぎと　一しょに　うたったり、おどったりしました。おじいさんは　大よろこびで、たのしく　あそびました。

おじいさんが、

「もう　かえります。」

と　いいました。

うきざは、おもちを　もって　きました。

「これは、うさぎの　くにの　おもちです。おいしい　おいしい　おもちです。おみやげに、この　おもちを　あげましょう。」

と　いいました。

おじいさんは、おもちを　もらって、うちへ　かえりました。

あ	か	さ	た	な	は
い	き	し	ち	に	ひ
う	く	す	つ	ぬ	ふ
え	け	せ	て	ね	へ
お	こ	そ	と	の	ほ

が	ば
ぎ	び
ぐ	ぶ
げ	べ
ご	ぼ
ざ	だ
じ	ぢ
ず	づ
ぜ	で
ぞ	ど
ぱ	
ぴ	
ぷ	
ぺ	
ぽ	

ま	や	ら	わ	ん
み		り		
む	ゆ	る		
め		れ		
も	よ	ろ	を	

きゃ	しゃ	ちゃ	にゃ	ひゃ	みゃ	りゃ
きゅ	しゅ	ちゅ	にゅ	ひゅ	みゅ	りゅ
きょ	しょ	ちょ	にょ	ひょ	みょ	りょ

ぎゃ	じゃ	ぢゃ	びゃ	ぴゃ
ぎゅ	じゅ	ぢゅ	びゅ	ぴゅ
ぎょ	じょ	ぢょ	びょ	ぴょ

	こ と ば		こ と ば		こ と ば
29	おおかみ	33	とおく	38	むかえ
	オンサ（Onca）		……のは	39	日（び）
	ライオン		ひろげて		えき（駅）
30	あ		（ひろげる）		うりば（売場）
	わに		おまちどおさま		おとこ
	さし（指す）		（まちどおい）		女（おんな）
	土（つち）		まいて（撒く）		ならんで（ならぶ）
	一ぴき		とりあいっこ		れつ
	口（くち）		くれ（呉れ）		ばん（番）
	あけて（あける）		とびつき		つき（着く）
	こわい		（とびつく）		かいさつ口
	それ	34	しまい	40	じゅんじゅん
	……から		また（又）		おさないで（押す）
	アンタ（Anta）		あした		ぼくら
31	じかん（時間）		……でも		どんどん
	……ね		まるい		てっきょう
	おいしい		目（め）		わたり（渡る）
	かし（菓子）	35	ごはん		たてました
	わあ		はなす（話す）		（たてる）
	うれしい		まわり		きらきら
	……にも		とじる		光って（ひかる）
	おいて（おく）		おと（音）	41	かわ（皮）
	あげましょう		ながい		ちらし（ちらす）
	（あげる）		右　（みぎ）		いけません
	なん（何）		左　（ひだり）		……ながら
	じ（時）	36	きえた（きえる）		外　（そと）
	かえる		こわれて	42	九月（くがつ）
	そう		（こわれる）		七日（なのか）
32	にわとり		とばそう（とばす）		はたとり
	十七（じゅうしち）	37	しゃぼんだま		かけっこ
	わ（羽）		とんだ（とぶ）		くみ
	夕がた（ゆうがた）		やね		ころんだ（ころぶ）
	ミーリョ（Milho）		……まで		おきて（起きる）
	ラッタ（Lata）	38	おどり		ほめて（ほめる）
	うらにわ		えんそく	43	十一月

おもな　ことば

	こ と ば		こ と ば		こ と ば
7	ことり	18	べんとう	25	こぶ
	おりて（おりる）		ほう（方）		ゆさゆさ
8	にわ　（庭）		むいて（向く）		させて（させる）
	つつじ		やあ	26	いけ
9	さいた（さく）	19	ぱくぱく		でたり（出たり）
10	うら		よろこんで（喜ぶ）		おもしろそう
	つり		すずしい		（おもしろい）
11	ペリー（Peri）	20	きのう		あそんで（あそぶ）
12	じんとり		はじめて		つな
	（じん取り）		……のに		しっぽ
	もの　（者）		うかんで（うかぶ）		まき（巻く）
	よって（寄る）	21	ゆうべ		つけて（つける）
	おいで		ゆめ	27	ぶらさがって
13	おったり	22	かたつむり		（ぶらさがる）
	（追ったり）		いもうと	28	水
	にげたり		でんでんむし		あびたり（あびる）
	（逃げる）	23	ブルーザ（Blusa）		とび（とぶ）
	……たり		ぬって（縫う）		うつったり
14	バナナ（Banana）		ねえさん		（うつる）
	みかん	24	どうぶつえん		つぎ　（次）
	すいか		きっぷ		マンドリル
	りんご		かって（買う）		……な
15	みせ		はいり（はいる）		えのぐ
	はい		ぞう		ぬった（ぬる）
16	へや		たち		よう
	そうじ	25	はな		……でした
17	はたき		くるっと		きちんと
	ほうき		まわして（まわす）		すわって（すわる）
	ちりとり		となり		りょう手
	ぞうきん		らくだ	29	こっち
	ばけつ		ころがり		おこった（おこる）
18	つかい		（ころがる）		くま

あたらしい　かんじ

・の　しるしは　まえに　ほかの
よみかたで　でた　もの

25 石(いし)	25 方(ほう)	26 出(で)たり	28 水(みず)	28 赤(あか)	28 青(あお)	30 土(つち)	30 口(くち)
32 夕(ゆう)がた	33 走(はし)って	34 目(め)	35 耳(みみ)	35 右(みぎ)	35 左(ひだり)	39 女(おんな)	40 光(ひか)って
41・出(だ)して	41 外(そと)	41 見(み)て	45 声(こえ)	49 力(ちから)	50 本(ほん)	51 火(ひ)	51 白(しろ)い
54 金(きん)	56・大金(おおがね)もち	57 犬(いぬ)	59 入(い)れて	60 山(やま)	64・小(こ)えだ	70・七日(なのか)	70・月(げつ)よう
70・火(か)よう	70・水(すい)よう	70・木(もく)よう	70・土(ど)よう	51 立(た)って			

内容について

4～30　「しろ」から始まってどうぶつえんまでの間に、ひらがなを習得させ正しく発音し、読み、書く練習をさせる。

12　じんとり　児童の好む陣取り遊びをとりあげ、陣取り遊びを理解させながら、その情景をよみとらせる。

14　おみせごっこ　果物屋さんごっこを読ませ、楽しい遊びを想記させ、対話文の読み方を教える。他の果物の名についても調べさせる。

16　そうじ　そうじについての経験を得させ、そうじ用具の名を教え、そうじに関心をもたせる。

18　おつかい　畑に弁当を持って行った時の、情景を読みとらせ、又使いに興味をもたせる。「やあ」「ぱくぱく」の使い方を教える。

24～30　どうぶつえん　ひらがな清音と大体の濁音を習得した後に提出したやや長文のもので、象・らくだ・猿・小鳥・マンドリル・わになど動物の様子を中心にして、文章を読みとらせ、動物に親しみをもたせる。

31　おやつ　時計の見方時刻表硯のしかたについて指導する。

32～34　にわとり　にわとりの世話をしている女の子の文章で、動物飼育の楽しさを読みとらせ、動物の観察描写について研究させる。

36～37　しゃぼんだま　しゃぼんだまの歌を通して、遊びの楽しさを読みとらせ、知っている遊び歌を、集めさせ「ふくな」「とばず」の否定語を、教える。

38　わとは　おとを。えとへ。現代かなづかいの方式の中

の助詞の特例について、正しい理解を与える。用例文を出して指導する。

39～41　きしや　身近な生活経験を作文に書く場合の、作文の初歩指導に重点　をおいて、取扱う。更に内容から発展して、交通に関する公衆遺徳をも指導する。

44～49　ランバリーの子ども　この文章は、言葉、内容の理解と、読後の感想を発表させることを目標として、取り上げたものてある。感じ方を話合いさせる。

50～51　わたしは　なんでしょう　なぞなぞによる言葉遊びをさせて、そのおもしろさを知らせ、なぞなぞを集めさせたり、作らせたりする。

52～53　はみがき　韻律のおもしろさを味わわせ、はみがさに興味を持たせ、各自実行させる。「お口でなってる」「あっちへこっちへ」「つよいはしろいは」などの、表現のおもしろさを理解させる。

54～56　金のたまご　イソップ物語の中の「金のたまご」である。「ふしぎ」「一つずつ」「ピカピカ」「たまりません」「きっと……ちがいない」「おもいきって」などの言葉は用例を示して理解させる。

57　ことばつなぎ　言葉つなぎによる、言葉遊びをさせ、○○が○○を○○するという基本文の構成を教え、文のおもしろさを知らせる。

58～59　パパイノエル　児童に最もしたしみぶかいナタールの詩である。これはブラジル語の詩を訳したもので、何ももらえなかった事を反省している子供らしい表現を理解させる。

60～67　チコジョンと、チカマリア　二羽の雀が自分たちの巣を作った話で、働らく楽しさと、完成した喜びを読みとらせ、話の筋を要約する練習を　させる。「木のめがふくらみ」「ほうぼう」「けれども」「ぎっしり」「すっかり」「かこまれて」「すばらしい」などを理解させる。

68～69　かんじのはじまり　漢字に対する興味と、理解を持たせるために、漢字の字源を説明したものである。木・口・大、なども教えるとおもしろい。

70　一しゅうかんのよう日　日・月・火・水・木・金・土の七曜を理解させ、その漢字を正確に覚えさせる。

72～79　おむすびころりん　最後の長文で、日本の昔話「おむすびころりん」を、取り上げて物語に興味を椅たせ、長文を読みこなして、物語の筋を、簡単にまとめる練習をさせ、他の物語をも進んで読むように指導する。

先生と父母へ

この教科書から、ひらがなを用いました。ひらがなをじゅうぶん習得して後、まとまりのある文章が、一応読み書きできるようにということを主眼として編集しました。児童が直接経験すると思われるような身辺のものから、少しずつ取材の範囲を拡げました。社会科、理科に属するものも、取り入れて、知識をひろめ、道徳心を養うことに役立つよう、配慮しました。

文章。文章の構成は作文学習への展開を予想して　だんだん複雑なものに進めました。そして表現形式にも、変化をもたせることにつとめました。

文字と言葉。ひらがなは、なるべく読みやすく書きやすい文字から、順に提出しました。清音を出した後に、それぞれ濁音、半濁音を出しました。漢字は、字形の難易、必要度などを考え、新出二十八字、読みかえ九字を出し

ました。又言葉の提出については、標準語の理解と、使用の力をつけるよう考慮しました。

内容。題材はすべて、児童が理解しやすいように、当地から取材し、時代の進歩に即して、知識をゆたかにさせたいど意図しました。又情操を豊かにし、日本語学習に興味を覚えさせるために、日本童話の長文物語を採用しました。

元史郎省図書監修官

監　修　林　実元（在京東）

編集執筆（ＡＢＣ順）

古野菊生
二木秀人
加藤千重子
岡崎親
坂田忠夫
武本由夫

表紙・挿絵（ＡＢＣ順）

星弘
屋ルリ子
石川剛
玉城卓治
土屋韶
渡辺優

にっぽんご（2）

一九七十一年四月二五日　印刷
一九七一年四月三十日　発行
定　価

著作者　日　伯　文　化　普　及　会
日本語教科書刊行委員会
発行者　日　伯　文　化　普　及　会
ブラジル、サン・パウロ市
サン・ジョアキン街三八一

東京都千代田区神田神保町三ノ二九
印刷者　株式会社　帝　国　書　院
代表者　守　屋　紀　美　雄

発行所　日　伯　文　化　普　及　会
ブラジル、サン・パウロ市、
サン・ジョアキン街三八一